

# 令和元年10月29日 代神誕生記念祭

神 示

「人生の姿」<sup>真理</sup> この世の仕組みを知って 「生きる」べし

神は なぜ供丸齋に使者としての任を与えたのか

分かるかや

終戦を迎え 日本<sup>にっぽん</sup>の姿が様変わりした時<sup>社会環境</sup>

精神世界に生きる決意を持ち 神を強く求めたこと

そして 病を患い 膏盲<sup>こうもう</sup>に入り

ますます神を強く頼ったこと

その強い心<sup>信念</sup>が 神のめがねにかなったのである

この真実を知って

信者は 代神の決意に共感し

その心に近づく努力がほしい

代神の精神を知り 近づく努力が

信者の心<sup>人生</sup>に気付きと悟りを引き出し

「真理」に生きて 「運命」に重なる心<sup>人生</sup>を育む

今<sup>今日</sup> 世界は

神の手の中 「正道」へと導かれて 修正されている

その時 この世の仕組みを知って 心正しく「道」ゆく者<sup>人間</sup>は

時代の運命に乗って ますます栄えてゆく

信者に申す

神示が下りる環境に身を置く我が身<sup>立場</sup>を大切に――

心正して信者の道をゆくなれば

人<sup>人間</sup>は皆 運命<sup>人生</sup>に心守られ 悔いなき人生を歩み抜ける

良き因を我が家<sup>家庭</sup>に残し

我が家庭の「心の道」を太くつないでゆける

使者供丸齋が示し 残した「人生」

その歩みの心<sup>姿</sup>を手本と仰ぎ 開運かなう人生を歩む時<sup>時代</sup>

人生は、過去に生きるものでもなければ、起きてもない未来に生きるものでもありません。今を生きているのです。ですから、この世の仕組みを知り、今この時を真理に沿って大切に生きることです。

神から使者の任を受け、神示教会を設立された供丸齋先生は、その重責を果たし、昭和六十三年十月二十九日、代神として昇華の時を迎えました。実在の神には使者が伴います。使者といっても、それぞれ担う役割が異なります。なぜ神が供丸齋先生を使者とし、神の実在を世に示されたのか、そこをつかんで、一人一人が生き方の手本とすることです。

供丸齋先生が使者の任を受けられたのは、大戦を境に社会が大きく変化した時でした。その時、物質世界への未練を断ち切り、精神世界、心の世界に生きる決意をされた供丸齋先生。その信念が神のめがねにかなったのです。

この真実を知り、供丸齋先生の思いに共感し、近づく努力をしてほしいと、神は促されました。そのような心にまでな

ると、もろもろの思い込みからも解放されて、大きく救われていきます。代神の精神を知り、そこに近づく努力が、気付き、悟りを深めて、運命に重なる心を育みます。

今、社会は、大きく変わろうとしています。神の手の中、一つ一つが基本に戻り、正しい道へと軌道修正が図られています。その中で生きる上では、この世の仕組みを踏まえ、真理に沿って生きることです。そこに、時代の運命とも重なって、自らの運命が光ります。

神の命<sup>めい</sup>を受け、供丸齋先生がおつくりくださった神示のある救世環境に、感謝を忘れないことです。神示には、今をどう生きるか、生きる知恵があります。

心を正して信者の道を歩めば、運命に重なり、人生を悔いのないものとすることができます。そこに良いものを残し、子々孫々へと心の道を太くつないでいきます。だからこそ、供丸齋先生が示し、残された生き方を心の手本に、開運のかなう人生を歩むのです。